

2.2 ベアメタルサーバー新環境移行（RHEL）のデータ移行手順

■ 前提条件および注意事項

- 移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要があります。ミドルウェア、アプリケーション等の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せください。
- 本手順では、データ移行にファイルストレージを利用します。
- 移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。

2.2 ベアメタルサーバー新環境移行（RHEL）のデータ移行手順

■ 移行作業内容

1. 移行先サーバーの作成
2. バックアップデータ保存用ストレージの作成
3. バックアップ作業
4. リストア作業
5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバーの削除

1. 移行先サーバーの作成

移行先となるサーバーを、以下の手順で作成してください。

[ベアメタルサーバーの新規作成方法](#)

2. バックアップデータ保存用ストレージの作成

SDPFポータルへログインし、バックアップデータ保存用ストレージを作成します。

[ファイルストレージの新規作成方法](#)

3. バックアップ作業

移行元サーバーで、バックアップデータを作成します。

「id ユーザー名」で出力される、移行するユーザーのID情報（ユーザーID・グループID・所属グループ）を控えてください。

※ 控えた情報は、後続「5. リストア作業(46ページ)」にて利用します。

コマンド例 : # *id test*

```
[root@rhel1818-ki ~]# id test
uid=1000(test) gid=1000(test) groups=1000(test)
```

「mkdir マウントポイント」で、マウントポイント用のディレクトリを作成します。

コマンド例 : # *mkdir /mnt/migration*

```
[root@rhel1818-ki ~]# mkdir /mnt/migration
```

3. バックアップ作業

以下コマンドで、ストレージをマウントポイントにマウントします。

コマンド例 : # `mount -t nfs -o vers=<NFSバージョン> <ターゲットIP>:/<マウント先のパス> <マウントディレクトリ>`

※詳細につきましては、以下チュートリアルをご確認ください。

[リソースからファイルストレージボリュームへの接続 - ファイルストレージ チュートリアル | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

```
[root@rhel818-ki ~]# mount -t nfs -o vers=4.1 [redacted] :/[redacted] /mnt/migration
```

「`cp -auv コピー元 コピー先`」で、移行が必要なデータをバックアップデータ保存用ストレージにコピーします。

コマンド例 : # `cp -auv /home/test/migration_data /mnt/migration/`

-a 元ファイルの属性を保持

-u 保存先ファイルより新しい、ファイルが存在しない場合にのみファイルをコピー

-v 実行内容を表示

```
[root@rhel818-ki ~]# cp -auv /home/test/migration_data /mnt/migration/
'/home/test/migration_data' -> '/mnt/migration/migration_data'
'/home/test/migration_data/testtext1.txt' -> '/mnt/migration/migration_data/testtext1.txt'
'/home/test/migration_data/testtext2.txt' -> '/mnt/migration/migration_data/testtext2.txt'
```

3. バックアップ作業

つながり。驚きを。幸せを。

 NTT docomo Business

「umount マウントポイント」で、ストレージをマウントポイントからアンマウントします。

コマンド例 : # *umount /mnt/migration*

```
[root@rhel818-ki ~]# umount /mnt/migration
```

4. リストア作業

移行先サーバーで、リストア作業を実施します。

「mkdir マウントポイント」で、マウントポイント用のディレクトリを作成します。

コマンド例 : # `mkdir /mnt/migration`

```
[root@rhel194-ki ~]# mkdir /mnt/migration
```

以下で、ストレージをマウントポイントにマウントします。

コマンド例 : # `mount -t nfs -o vers=<NFSバージョン> <ターゲットIP>:/<マウント先のパス> <マウントディレクトリ>`

※詳細につきましては、以下チュートリアルをご確認ください。

[リソースからファイルストレージボリュームへの接続 - ファイルストレージ チュートリアル | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

```
[root@rhel194-ki ~]# mount -t nfs -o vers=4.1 [redacted]:/[redacted] /mnt/migration
```

4. リストア作業

移行先となるユーザーを作成します。

以下のコマンド例をバックアップ時に確認したUIDやGIDに置き換えてください。

コマンド例 : # `groupadd -g (GID) ユーザー名`
: # `useradd -u (UID) -g (GID) グループ名`

```
[root@rhel194-ki ~]# groupadd -g 1000 test
[root@rhel194-ki ~]# useradd -u 1000 -g 1000 test
```

移行先となるユーザーのパスワードを設定します。

コマンド例 : # `passwd ユーザー名`

```
[root@rhel194-ki ~]# passwd test
Changing password for user test.
New password:
Retype new password:
passwd: all authentication tokens updated successfully.
[root@rhel194-ki ~]#
```

「`mkdir ディレクトリ`」で、移行先となるユーザーディレクトリ配下に移行データ用ディレクトリを作成します。

コマンド例 : # `mkdir /home/test/migration_data_from_oldrhel`

```
[root@rhel194-ki ~]# mkdir /home/test/migration_data_from_oldrhel
```

4. リストア作業

「cp -auv コピー元 コピー先」で、バックアップデータを移行先ディレクトリにコピーします。
移行対象のデータが含まれるドライブを選択します。

※手順書ではユーザデータ（ユーザーディレクトリ配下のファイル）の移行手順を記載します。

コマンド例 : # cp -auv/mnt/migration_data /home/test/migration_data_from_oldrhel
-a 元ファイルの属性を保持
-u 保存先ファイルより新しい、ファイルが存在しない場合にのみファイルをコピー
-v 実行内容を表示

```
[root@rhe194-ki ~]# cp -auv /mnt/migration/migration_data /home/test/migration_data_from_oldrhel/  
'/mnt/migration/migration_data' -> '/home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data'  
'/mnt/migration/migration_data/testtext1.txt' -> '/home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data/testtext1.txt'  
'/mnt/migration/migration_data/testtext2.txt' -> '/home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data/testtext2.txt'  
[root@rhe194-ki ~]#
```

「diff -r コピー元 コピー先」で、差分を確認します。何も表示されなければ成功です。

コマンド例 : # diff -r /home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data /mnt/migration/migration_data

```
[root@rhe194-ki ~]# diff -r /home/test/migration_data_from_oldrhel/migration_data /mnt/migration/migration_data  
[root@rhe194-ki ~]#
```

4. リストア作業

「cat ファイル名」で、ファイルの中身が読み取れるか確認します。

コマンド例 : \$ cat testtext1.txt

```
[test@rhel194-ki ~]$ cd migration_data_from_oldrhel/migration_data/
[test@rhel194-ki migration_data]$ ls -l
total 8
-rw-rw-r--. 1 test test 24 Aug 26 03:15 testtext1.txt
-rw-rw-r--. 1 test test 24 Aug 26 03:15 testtext2.txt
[test@rhel194-ki migration_data]$ cat testtext1.txt
testtext1_025 0826 1215
[test@rhel194-ki migration_data]$ cat testtext2.txt
testtext2_025 0826 1215
```

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

新環境へのデータ移行が完了し、アプリケーションが問題なく稼働することをご確認いただけましたら、バックアップデータ保存用ストレージと移行元サーバを削除していきます。

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

移行先サーバーで、下記コマンドを入力し、バックアップデータ保存用ボリュームをアンマウントします。

コマンド例 : `# umount /mnt/migration`

```
[root@rhe194-ki ~]# umount /mnt/migration
```

下記コマンドを入力し、アンマウントされたことを確認します。

`# df -Th`

```
[root@rhe194-ki ~]# df -Th
```

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

【ファイルストレージの削除】

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

SDPFポータル画面を開き、「ストレージ」→「ファイルストレージ」→「スタンダード」で「仮想ストレージ」画面を開きます。

名前	説明	ボリューム種別	作成日時	関連ボリューム	ステータス	アクション
	-	standard_nfs_na	2025-04-28 07:53:10		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2025-05-21 05:21:51		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2025-09-02 07:21:46	:	利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2024-11-05 01:40:50		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2025-07-28 04:58:15		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2025-08-22 00:16:23		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2025-09-02 00:37:30		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2022-11-11 07:53:01		利用可能	仮想ストレージの編集

8件表示

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

「仮想ストレージ」画面で、バックアップデータ保存用ストレージをクリックします。

The screenshot displays the '仮想ストレージ' (Virtual Storage) management page. The left sidebar contains navigation options such as 'テナント情報', '仮想サーバー', '物理サーバー', 'ハイパーバイザー', 'ストレージ', 'ブロックストレージ', 'IO性能確保', 'ファイルストレージ', 'スタンダード', 'クラウド/サーバー ローカルネットワーク', '相互接続/関連サービス', and 'クラウド/サーバー ネットワークセキュリティ'. The main content area shows a table of storage resources. The '対象ストレージ' (Target Storage) entry is highlighted with a red box.

名前	説明	ボリューム種別	作成日時	関連ボリューム	ステータス	アクション
	-	standard_nfs_na	2025-04-28 07:53:10		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2025-05-21 05:21:51		利用可能	仮想ストレージの編集
対象ストレージ	-	standard_nfs_na	2025-09-02 07:21:46		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2024-11-05 01:40:50		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2025-07-28 04:58:15		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2025-08-22 00:16:23		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_smb_na	2025-09-02 00:37:30		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2022-11-11 07:53:01		利用可能	仮想ストレージの編集

8件表示

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

「仮想ストレージの詳細」画面が開くので、「ボリュームの編集」の右の「▼」を押し、「ボリュームの削除」を押下します。

仮想ストレージの詳細:

仮想ストレージの編集 ▼

ボリュームの作成

名前	説明	ゾーン/グループ	作成日時	サイズ	ステータス	アクション
対象ボリューム	-	zone1-group	2025-09-02 07:23:09	10240B	利用可能	ボリュームの編集 ▼ ボリュームの削除

1件表示

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

「ボリュームの削除の確認」画面が表示するので、「ボリュームの削除」を押下します。

ボリュームの削除の確認



を選択しました。選択内容を確認してください。この操作は取り消せません。

取り消し

ボリュームの削除

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

つながろう。驚きを。幸せを。

 NTT docomo Business

「仮想ストレージの詳細」画面に戻りますので、バックアップデータ保存用ストレージのボリュームが削除されたことを確認します。



仮想ストレージの詳細:

概要 ボリューム

仮想ストレージの編集

+ボリュームの作成

名前	説明	ゾーン/グループ	作成日時	サイズ	ステータス	アクション
表示する項目がありません						

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

画面左のメニュー欄で、「ストレージ」→「ファイルストレージ」→「スタンダード」をクリックします。

仮想ストレージの詳細:

仮想ストレージの編集

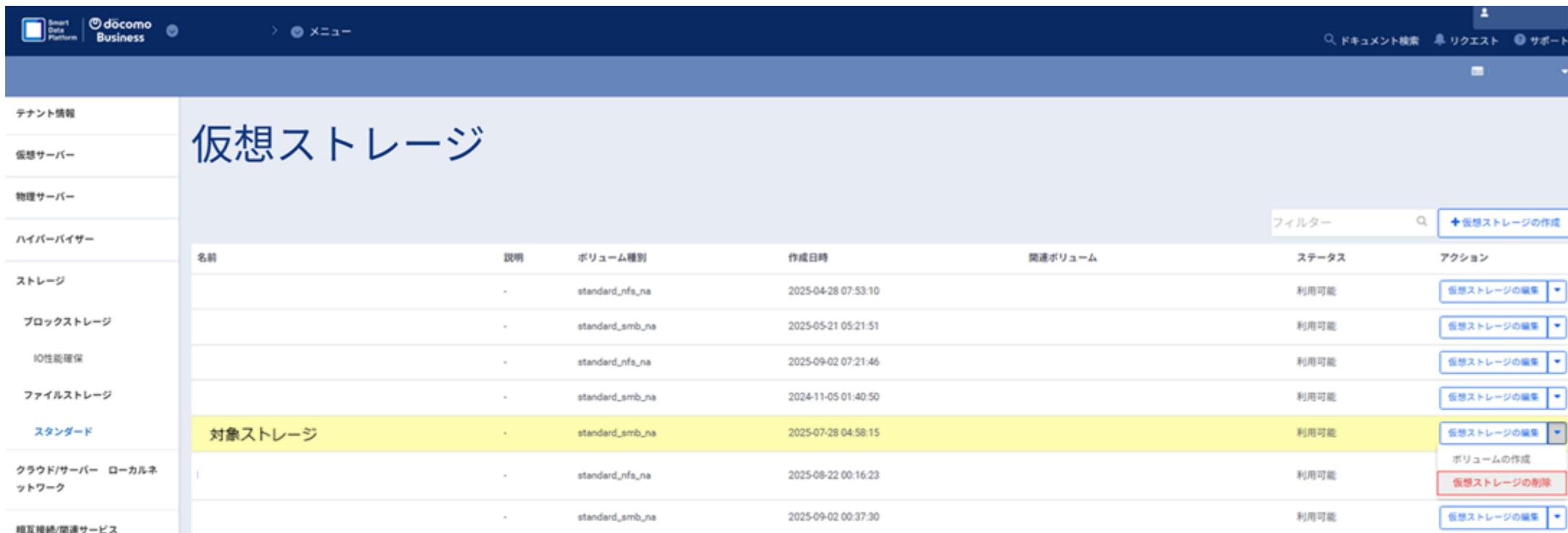
概要 ボリューム

+ボリュームの作成

名前	説明	ゾーン/グループ	作成日時	サイズ	ステータス	アクション
表示する項目がありません						

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

「仮想ストレージ」の画面が開くので、バックアップデータ保存用ストレージの右の「▼」を押し、「仮想ストレージの削除」を押下します。



仮想ストレージ

フィルター

+仮想ストレージの作成

名前	説明	ボリューム種別	作成日時	関連ボリューム	ステータス	アクション
	-	standard_nfs_na	2025-04-28 07:53:10		利用可能	仮想ストレージの編集 ▼
ブロックストレージ	-	standard_smb_na	2025-05-21 05:21:51		利用可能	仮想ストレージの編集 ▼
IO性能確保	-	standard_nfs_na	2025-09-02 07:21:46		利用可能	仮想ストレージの編集 ▼
ファイルストレージ	-	standard_smb_na	2024-11-05 01:40:50		利用可能	仮想ストレージの編集 ▼
スタンダード	対象ストレージ	standard_smb_na	2025-07-28 04:58:15		利用可能	仮想ストレージの編集 ▼ ボリュームの作成 仮想ストレージの削除
クラウド/サーバ ローカルネットワーク	-	standard_nfs_na	2025-08-22 00:16:23		利用可能	
相互接続/関連サービス	-	standard_smb_na	2025-09-02 00:37:30		利用可能	仮想ストレージの編集 ▼

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

「仮想ストレージの削除の確認」の画面が表示されるので、「仮想ストレージの削除」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

つながろう。驚きを。幸せを。

 NTT docomo Business

「仮想ストレージ」の画面に戻るので、バックアップデータ保存用ストレージの「仮想ストレージ」が削除されたことを確認します。



名前	説明	ボリューム種別	作成日時	関連ボリューム	ステータス	アクション
	-	standard_nfs_na	2025-04-28 07:53:10		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_amb_na	2025-05-21 05:21:51		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2025-09-02 07:21:46		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_amb_na	2024-11-05 01:40:50		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_nfs_na	2025-08-22 00:16:23		利用可能	仮想ストレージの編集
	-	standard_amb_na	2025-09-02 00:37:30		利用可能	仮想ストレージの編集

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

【移行元サーバの削除】

5. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

全てのバックアップデータが移行先サーバに移行され、移行先での稼働に問題ないことを確認した上で、移行元サーバを削除します。削除方法は以下を参照ください。

[ベアメタルサーバの削除方法](#)

2.2 ベアメタルサーバー新環境移行（RHEL）のデータ移行手順

- APIを利用した移行作業内容および詳細
 - APIを利用した手順について、現時点での準備はございません。

2.2 ベアメタルサーバー新環境移行（RHEL）のデータ移行手順

■ 切り戻し方法

- 「手順6. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除」前であれば、移行元環境が残っているため、切り戻しが可能です。
- 「手順6. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除」後の切り戻しはできません。
- 必要に応じて、以下ユースケースを参考にバックアップの取得をご検討ください。

[2. ベアメタルサーバーのバックアップ&リストア概要および手順 RHEL8.8編](#)

2.2 ベアメタルサーバー新環境移行（RHEL）のデータ移行手順

■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。
お問い合わせ内容によって下記区分をご選択ください。

Incident Submission	:	故障・不具合に関するお問い合わせ
General Inquiry	:	設備更改のガイドラインおよび手順書に関するお問い合わせ